

千葉県立中央博物館分館海の博物館

博学連携によるウミウの広域モニタリング

～渡り鳥でつながる島国日本の海洋教育ネットワーク構想～

調査研究期間：2025年4月1日（x）～2026年3月15日（日）



企画展示会場入口



海鳥の天敵となる捕食者たちの剥製標本

【調査研究の内容・目的】

- 海洋教育には個別の単発的な取り組みが多く、海洋環境の地域差や多様性を感じられる機会は少ない。この課題に応える地域横断的かつ継続的な海洋教育の材料として、日本沿岸に数多く生息する渡り鳥であるウミウを活用できないか、その可能性を探った。
- ウミウにまつわる天然記念物等の文化財は全国に数多く、文化的・教育的価値が認められる地域資源である一方で、渡り鳥として日本各地をつなぐ存在でもある。各地でウミウの個体数やその季節変化をモニタリングし、また人とのかわりについて調べた学習成果等を、地域間で発表し合うような交流が生み出せれば、地域横断的かつ継続的な海洋教育を実現できると考えた。
- 本調査研究では、日本各地の主なウミウ越冬地において、海洋教育のベースとなる個体数・食性に関する生態学的な調査と、歴史・民族的な資料の収集を行った。

1. 調査研究内容の詳細

【調査研究代表者】

■平田和彦（千葉県立中央博物館分館海の博物館・研究員）

【調査研究分担者】

■なし

【実施計画】

■1 か年計画 1 年目

【主な調査研究対象など】

■日本列島各地における越冬期のウミウ集団ねぐらの個体数カウント

■日本列島各地におけるウミウの糞採集（DNA 解析による食性分析）

■国指定重要無形民俗文化財「気多の鵜祭り習俗」に関する資料収集



山口県長門市のねぐら調査風景



愛知県南知多町の集団ねぐら



静岡県御前崎市のねぐら調査風景



兵庫県南あわじ市のねぐら調査風景

令和8年1月下旬から2月上旬に、国指定天然記念物「壁島ウ渡来地」を含む山口県5ヶ所（下関市・長門市・防府市・周南市・柳井市）、兵庫県1ヶ所（南あわじ市）、和歌山県3ヶ所（美浜町、みなべ町、那智勝浦町）、三重県2ヶ所（鳥羽市）、愛知県2ヶ所（南知多町、田原市）、静岡県2ヶ所（御前崎市、牧之原市）、千葉県4ヶ所（鋸南町、鴨川市、勝浦市、銚子市）、茨城県1ヶ所（神栖市）の計20ヶ所の集団ねぐらで、個体数のカウントを実施した。なお、このほかに自主的な調査として、静岡県1ヶ所（沼津市）、神奈川県4ヶ所（鎌倉市・葉山町・三浦市・横須賀市）、千葉県1ヶ所（御宿町）、茨城県5ヶ所（日立市、高萩市、北茨城市）、福島県2ヶ所（いわき市）の計13ヶ所の集団ねぐらでも、同様に個体数のカウントを実施した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



山口県下関市の糞採集調査風景



山口県防府市の糞採集調査風景



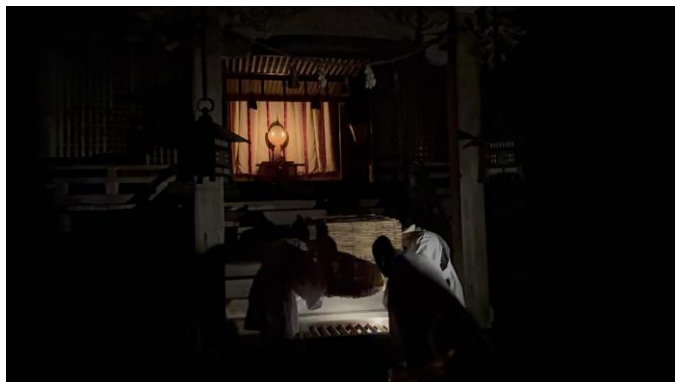
和歌山県那智勝浦町の糞採集調査風景



漁業者から回収したウミウの混獲個体

令和8年1月から2月に、集団ねぐらの個体数カウントを行った調査地のうち、8ヶ所（山口県2ヶ所、兵庫県1ヶ所、和歌山県1ヶ所、三重県1ヶ所、静岡県1ヶ所、千葉県1ヶ所、茨城県1ヶ所）で糞採集を実施した。また、4ヶ所で死体回収を行った。

糞に含まれるDNAから各地における主な食性を解析する。現在、解析を業者に委託中であり、結果は3月下旬に納品される予定である。なお、解析業者の選定にあたっては、本事業の支援を受けて事前に実施したコグンカンドリの糞分析を参考とした。



気多大社の鵜祭
ここで使用されている籠を資料として収集した



鵜祭の後、大役を終えた「鵜様」を海に運ぶ様子
このような映像資料を撮影した

令和7年12月15日から16日に、国指定重要無形民俗文化財「気多の鵜祭の習俗」に関する資料収集を石川県2ヶ所（羽咋市・中能登町）で実施した。気多大社で行われた「鵜祭」を訪れ、写真および映像資料の撮影を行うとともに、実際に神事で使用された「鵜様」（神様であるウミウ）を運ぶための籠などを収集した。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

2. 本調査研究成果を基に計画・実施可能な 「海の学び」に繋がる博物館活動案

■博物館活動の形態：ウミウの食性に関する講座

■実施時期：2026年4月29日（水・祝）

■実施場所：千葉県立中央博物館分館海の博物館 講座実験室

【実施内容】

■講座「海鳥のささみ・ハツ・砂肝」を実施する。

参加者とともに海鳥の死体を解剖し、内臓や筋肉などの体のつくりについて解説するとともに、消化管内を確認して食性を調べる。講座で使用する試料の一部に、本事業で兵庫県南あわじ市、三重県鳥羽市、愛知県南知多町、千葉県鋸南町から収集したウミウの死体を用いる。

なお、この講座は、2025年度船の科学館「海の学びミュージアムサポート」プログラム1の支援を受けて実施中の、令和7年度マリンサイエンスギャラリー「うみ鳥っぷ2 [umi-Trip 2] ー海鳥と旅する食物連鎖の世界」の付帯事業として実施するものである。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

■千葉県内外の近隣博物館で、「うみ鳥っぷ2」のちらしを配架し、広報に協力いただいている。

【特に学校教育との連携について】

■特になし

- 博物館活動の形態：ウミウの渡りをテーマとした企画展示
- 実施時期：2026年7月11日（土）～11月15日（土）
- 実施場所：千葉県立中央博物館分館海の博物館

【実施内容】

- 令和8年度収蔵資料展「うみ鳥っぴ3 [umi-Trip 3] ―ウミウと渡る日本列島縦断紀行―」を開催する。
なお、この展示の実施に向けては、2026年度船の科学館「海の学びミュージアムサポート」プログラム1の支援を申請中である。
- ウミウの基礎生態
ウミウと近縁種のカワウやヒメウの剥製標本を並べ、ウミウの体のつくり、潜水採餌等のウミウの基本的な生態、食性等について紹介する。このコーナーで、本事業により解明されたウミウの食性情報を反映する。
- ダイナミックな渡りの追跡
ウミウにGPSデータロガーを装着し、渡りの生態を解明する。その生データをリアルタイムで展示し、来館者とともに最新の研究成果を共有し、研究の最前線を味わってもらうことを試みる展示である。
- 全国各地におけるウミウと人とのかかわり
全国各地の漁業や祭祀などにおける、ウミウと人との多様なかかわりを紹介する。このコーナーで、本事業で収集した「気多の鵜祭の習俗」に関する資料も展示する。

【他の博物館・機関や地域社会との連携や取り組み内容】

- 以下の日程・会場で巡回展示を実施する。
 - ・令和8年12月12日（土）～令和9年1月11日（月・祝）
我孫子市鳥の博物館
 - ・令和9年1月16日（土）～2月14日（日）
銚子市ジオパーク・芸術センター
- それぞれの会場地域と関連の深いウミウに関する展示を行う。本事業で収集したウミウの死体を活用して、巡回展示用に触れる剥製標本を制作する。

【特に学校教育との連携について】

- 本事業の成果のうち、特に、糞分析などによる食物連鎖に関する内容は小学校6年生の理科「生物どうしのかかわり」、個体数の季節変化等に関する内容は小学校4年生の理科「季節と生物」の単元と関連付けることができる。展示内容に関連した出前授業を、千葉県内を中心に実施できる可能性がある。
- 令和8年度収蔵資料展終了後に、巡回展示用のトランクキットなどを制作したい。ウミウに関連して、体のつくり、渡り、食性などのテーマごとにトランクで展示を作り、希望する学校や他館にセットで貸し出したい。

【事業全体のまとめ】

本サポートを受けたことにより、日本列島各地のウミウの越冬状況を広域的に把握することができた。また、各地で糞のサンプリングを実施したことで、その食性の地域差を解明できる見込みである。これらの成果は、今後、当館における様々な活動（企画展示や講座）に活用する予定がすでに立っている。

本事業の実施当初に掲げた目標の一つである市民や学校と連携したモニタリング調査については、学校現場での指導時間・人員確保の難しさ、統廃合による調査地へのアクセスの悪化等、様々なハードルがあることがわかった。そこで、学校の負担が少ない形でウミウに関する学習を進めるには、出前授業のほか、トランク展示など扱いが簡単な貸し出しキットによる出張展示などが現実的であり、これらを推進すべきであることがわかった。

主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. つのしま自然館	山口県内の学校の紹介、現地調査
2. 下関市立豊北小学校	学校現場の意見聞き取り
3. 下関市立豊北中学校	学校現場の意見聞き取り
4. 防府市立野島小中学校	学校現場の意見聞き取り
5. 南あわじ市立沼島中学校	学校現場の意見聞き取り
6. 環境省宇久井ビジターセンター	和歌山県内の学校の紹介
7. 那智勝浦町立宇久井小学校	学校現場の意見聞き取り
8. 那智勝浦町立宇久井中学校	学校現場の意見聞き取り
9. 鳥羽市立神島小中学校	学校現場の意見聞き取り
10. 御宿町立御宿小学校	学校現場の意見聞き取り

主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1.	
2.	
3.	
4.	
5.	

以上